

タイトル

「アラサン（傘寿）女子は

ティファニーが大好き！」

立石 えり子

あらすじ

郊外の住宅地で一人暮らしをするアラサン（アラウンド傘寿）世代たち。

下島寿子（79）はオードリーヘップバーン風の服でスポーツカーを乗り回し、山下幸恵（81）は、いじわる婆さん風の地味な服で巣鴨に通う。

対照的な二人は何かと衝突してきたが、住宅地の高齢化が進み今や共通の矛先は北森市役所の別府係長（32）。様々な陳情で吊るし上げている。

ある日、物損事故を起こした寿子は息子から免許返納を説得されるが、「車がないと生活できない」と断固拒否。が、修理から戻った車に自治会長の丸山（82）を乗せて高速道路を逆走し丸山は搬送される。

落ち込んだ寿子は息子のマンションに身を寄せるが昼間は寿子一人。さらに地味な服を買いに行かされる。

失意の中、丸山を見舞うと、丸山は「ご主人の介護も頑張ってた。褒美に、これからはオードリーヘップバーンのように凜と生きればいい」と寿子を励ます。

勇気づけられた寿子が自宅に戻ると幸恵がシニアカーを乗り回していた。対抗してシニアカーを買った寿子は幸恵とたちまち超低速カーチェイス。

しかし、幸恵が転倒したことで寿子は幸恵が老人ホームに転居することを知る。荷物の中に互いの子供の写真を見つけた寿子は幸恵を引き留める。

今後は助け合って生きて行こうと、まずは安全にシニアカーが走れる専用レーンの設置を市に陳情するが別府がついに逆ギレ。が、その夜、別府がたまたま見たセグウェイ公道走行特区のニュースから思いつき、北森市は「高齢者にやさしい交通システム」を国に構造改革特区申請することに。寿子らも全面協力して計画案ができあがる。

が、霞が関の審査会で別府のプレゼンは官僚らが一蹴。ところが取材していたテレビ局が寿子に番組出演を依頼する。オードリーヘップバーンばりの服を着た寿子が番組で計画の必要性を訴え官僚らを叱責。視聴者の意見が殺到し国は一転申請案を採択する。寿子らが望んだ専用レーンが華々しくオープンする。

(8 0 2 文字)

登場人物表

下島寿子	(79)	(37)	新興住宅地の住人
山下幸恵	(81)		寿子の近所の住人
別府貴司	(32)		北森市役所係長
丸山和雄	(82)		自治会長
水上彩乃	(30)		丸山の孫
下島武彦	(47)	(5)	寿子の息子
下島美香	(43)		武彦の妻
関根	(42)		別府の上司(課長)
大内香織	(32)		テレビ局プロデューサー
今泉寅次郎	(35)		衆議院議員
水野	(57)		大学教授
官僚1			
官僚2			
テレビ司会者の男性			
スパー警備員			
移動販売の男性			
警察官			
女性警察官			
ラーメン屋店主			
新興住宅地の高齢女性			
シニアカー販売店員			

○映画 「ティファニーで朝食を」の冒頭映像
テーマ曲「ムーンリバー」が流れる。
早朝のニューヨーク5番街。
サンダラスをしたオードリーヘップバ
ーの、タクシーを降り、「ティファニ
ー」の看板を見上げる。

○銀座周辺・外観
「ムーンリバー」がそのまま流れて。
地下鉄「銀座」駅の表示。
銀座4丁目の時計塔など。

○同・歩道
オードリーヘップバーン風の大きな帽
子にサンダラス、派手なワンピースの
女性の後ろ姿、モデルウォーク風に歩
いていく。
※以下、映画映像と交互に。

○映画 「ティファニーで朝食を」の映像続き
オードリーヘップバーン、ティファニ
ーの窓を覗き込みながらクロワッサン
を出して食べ始める。

○銀座・ティファニー銀座店前
ワンプリースの女性の後ろ姿、ティファ
ニーの前でクロワッサンを出して食べ
始める。（顔は見えない）

○映画 「ティファニーで朝食を」の映像続き
食べ終えたオードリーヘップバーン、
ゴミ箱に紙袋を投げ入れる。

○銀座・パーキングメーター付近
駐車スペースに派手なスポーツカー。
ワンプリースの後ろ姿、ゴミ箱に紙袋を
投げ入れ、運転席に軽やかに乗り込む。

○スポーツカー内
真っ赤なマニキュアの手がカーステ

レオを操作。
バックミラーで口紅を直し、大きなサ
ングラスを外すと、ミラーに映るのは
下島寿子（79）。
「マイフェアレディ（踊り明かそう）」
が大音量で流れ出す。
寿子、サングラスを再びかけ、スポー
ツカーを勢いよく発進させる。

○銀座付近の道路

大音量の「マイフェアレディ」を響か
せ、派手なスポーツカーが走っていく。

○巢鴨商店街・外観

「巢鴨商店街」の表示のある通り。
※「マイフェアレディ」がそのまま
流れて。

○同・歩道

いじわる婆さん風、灰色の地味な服の
山下幸恵（81）、化粧っ気もなく、
手押し車を押しながら、高齢の女性数
人と楽しげに歩く。

○別の道路

大音量の「マイフェアレディ」を響か
せ、スポーツカーが走り抜ける。

○タイトル

「アラサン（傘寿）女子はティファニ
ーがお好き！」

○スーパー銭湯内・カラオケ室

幸恵ら高齢の女性たち、浴衣姿でカラ
オケに興じている。
仲間の声援を受け、熱唱する幸恵。

○桜が丘住宅・外観

都心郊外にある、かつての新興住宅地。
同じような戸建ての家が並ぶ中に、

「売家」の看板がちらほら。
庭に草がボーボーの空き家も散在する。
空き家に野生動物（ハクビシンなど）。
※音楽止んで。

○北森市役所・外観
「北森市役所」の表示のある建物。

○同・まちづくり推進課

カウンターのある市役所の執務室。
カウンター内に立つ別府貴司（32）、
手渡された分厚い書類を見つめている。
対面にスーツ姿の丸山和雄（82）と
幸恵ら数名の地味な服の高齢女性が仁
王立ち状態。
丸山「ですからね、別府君。私たちもそんな
に難しいことお願いしているつもりはない
んですよ」

別府「・・・はあ」
丸山「空き家の家主たちに注意してもらうだ
けでいいんだから」

幸恵「こないだなんか、ハクビシンが子供産
んじやあって、まあ大変だったんだよ？」

別府「それ、たしか台湾リスでは？」
幸恵「ハク・ク・ビ・シン！今度はハクビ
シンだった。まったく、うちの周り、動物
園かいて感ぜだよ」

丸山「とにかく、年寄りが多いし空き家は物
騒だから、せめて庭の草刈りだけはやって
くれって、家主たちに」

別府「わかりました。少しお時間下さい」
幸恵「まじった、少しお時間だよ、この人」

丸山「その陳情書に詳細書きましたから、よ
く読んでね、別府君」

別府「はあ」
幸恵「ったく、そうやって生返事ばかり！」
別府「汗をぬぐう。」

○走る小型バス（夕）

○同・中（夕）

丸山「車内に丸山、幸恵と高齢女性数人。来なかつたんですね？」

丸山「高齢女性たち、「うんうん」と。丸山「下島さんがいると華やかなんですけどねえ」

○桜が丘住宅内・バス停（夕）

小型バスが停まり、幸恵ら高齢女性たちが賑やかに下りてくる。最後尾の丸山、バスのステップを降りかけて振り向く。大音量の「マイフェアレディ」が聞こえ、バス停の横を寿子のスポーツカーが通過していく。丸山、寿子に手を振る。寿子、ハンドルから軽く片手を上げる。幸恵「いまましそうに、あのド派手な車。最近、あれ見ると目がチカチカしてくるんだよ」

幸恵「高齢の女性たち、眉をひそめうなずく。香水もくつつさいんだよねえ」

丸山「ここにやかに車を見送る。」

○スポーツカー車内（夕）

寿子「あらら、ねずみ色の幸恵たちを見て、街が辛気臭くなつて困つたもんだわ」

○下島家・玄関前（夕）

「下島」の表札がある一軒家。駐車スペースに寿子が乗ったスポーツカーが停まる。サイドブレーキの音が響く。

○同・玄関・中（夕）

暗い玄関のドアが開き、ブランド物の服の紙袋を下げた寿子、家の中に向か

つて、
寿子「お父さあーん！ ただいまあ！」
スリッパをパタパタ入っていく。

○同・リビング（夕）

寿子、電気を点けて入ってくる。

小さなテーブルの上の高齢男性（寿子の夫）が微笑んだ遺影とお鈴。

寿子「遅くなっちゃったわあ。美術館、混ん

でたのよ。お腹すいたでしょ？」
遺影の前のお鈴をチーンと鳴らす。

寿子「そうそう。ちよっと待ってて？」
寿子、紙袋を持って部屋を出ていく。

× × ×
寿子「これ、買ったやつたあ。どう、似合う

でしょ？」
寿子、ぐるっと一回転して微笑む。

○山下家・外観（夜）

「山下」の表札のある一軒家。

○同・リビング（夜）

ソファセットの前に、昔ながらの丸い

ちゃぶ台。
幸恵、テレビのお笑い番組を見ながら

床に座って、一人、お茶漬けをすすつ

ている。
テレビ画面で、お笑い芸人がマシंगा

ントーク。
幸恵、体を前に曲げて大笑いしている。

幸恵「あーあ、まったく。ポリッポリッ

指で漬け物をつまんで口にを入れる幸恵。

誰もいない部屋に、ポリッポリッと漬

け物を噛む音が響く。

つばのある大きな帽子にサングラスの
 寿子、スーパの袋を抱え、スポーツ
 カーの運転席に乗り込む。幸恵、通りか
 かる。寿子、窓をあけ、
 幸恵「奥様、お宅までお送りしまし
 ませんか？」
 幸恵「あらま、ご親切だ。でも、まだ死に
 たくないもんでね！」
 幸恵「ふんっ！」と通り過ぎていく。
 寿子「荷物もあるんだし乗ればいいじや
 ない。年の癖に素直じゃないから」
 後ろを見ながらバックで発進のつもり。
 が・・・
 ガッシヤン！という衝撃音。
 驚いて走ってくる警備員たち。
 遠巻きに見守る買い物客ら。
 × × ×
 運転席のシートが後ろに倒れ、仰向け
 になつている寿子。
 サングラスがずれ、帽子のつばにセロ
 リの葉っぱなど。
 警備員、窓ガラスを激しく叩く。
 警備員「お婆ちゃんお婆ちゃん！！」
 寿子「お婆ちゃん！気が付く。大丈夫
 ですかっ！」
 警備員「お婆ちゃん！起き上がり、
 寿子「憤然と起き上がり、
 幸恵「はあ？誰がお婆ちゃんですって！」
 幸恵「覗き込み、クククつと笑う。」

○下島家・外観（夕）
 外に自家用車が停まっている。

○同・リビング（夕）
 額に絆創膏を貼った寿子、下島武彦
 （47）とソファでらみ合っている。
 寿子「嫌よ。死んでも免許は返納しないから」
 武彦「母さんはいいいよ、もう先が短いんだから」
 すら。でも、ひと様に怪我でもさせたらさあ」

○同・リビング（夜）

計の音だけが響いている。
寿子、遺影の前にイスをずーっと運んで座る。
寿子「ねえお父さん。今日ね、あたし車ぶつしちゃったの。昔、車ぶつけると、お父さん、慰めてくれたわよね？」
寿子「涙ぐみ始める。」

○（回想）下島家・玄関前

引越しの車が停まっ
て業者が荷物を運んでいる。
寿子（37）と夫、武彦（5）を連れて乗用車から降りてくる。
武彦「庭で駆け回り、
武彦「ママ、ママ！ 犬、飼っている？」
寿子「そうね。ここなら飼えるわね？ よかったね、武彦」
寿子、隣の夫を見上げて涙ぐむ。
夫、寿子の肩を抱き寄せる。

○（戻って）元のリビング（夜）

寿子「武彦ね。やっぱり、この家、やなんだって。折角、お父さんが建ててくれたのに」
寿子「ぐずぐずと泣く。」
カッチカッチと時計の音が響く。
「お湯が沸きました」の機械の声。
寿子「（涙を拭き）はいはいっ、ご苦労さま」
寿子「ゆっくり立ち上がる。」

○桜が丘住宅・外観

高齢者が犬の散歩をしている。

○丸山家・玄関前

「丸山」の表札。
水上彩乃（29）、チャイムを押す。
「お祖父ちゃん、インターフォン、ちゃ

寿子「だっ、手の平で机をポンポンと叩き、
まるで保障して戴かないと。このままじゃ、
詐欺にあつたも同然だと思ひませんこと？」
別府「泣きそうな顔でうなずいてゐる。」

○丸山家・外観

○同・リビング
ソファに丸山と彩乃が並び、向かい合
つて警察官二人が話を聞いている。
彩乃「うなずきハンカチで涙を拭う。」

○桜が丘住宅・外観（夕）

陽気な音楽を流しながら、野菜の移動
販売車がゆっくり走り走っている。

○下島家・ダイニングキッチン（夕）

寿子「あらやだ食べるもん、なんにもないじ
やない。この時間ってバスあつたかしら？」

寿子「車がなくてこれだから・・・」

窓の外を陽気な音楽が聞えてくる。
窓の外を販売車がゆっくりと通過。
寿子「財布を手にかげ出す。」

○桜が丘住宅内・道路上（夕）

野菜を売るトラックが停車している。
販売員の男性、大きな帽子の寿子に、
販売員「あれ？奥さん、珍しいじゃない」

幸恵「この人、こないだスーパの壁に車、
ぶつけちゃったからね」

幸恵「（販売員に）ねえ？　なんだか香水が
臭くない？」

販売員「ええ？」
幸恵「ねええ？　八百屋に出てくる時ぐらい、
香水やめられないもんかしらねえ？」

販売員「いや、この匂い俺、好きっすよ。最近の柔軟剤のキツイ匂いよりよっぼどいい」
 寿子「これね？オードリーヘアパーンも愛用してた香水で・・・」
 寿子「彩乃、エコバックを持ってやってくる。彩乃「あ、お久しぶりです。いつも祖父がお世話になってます」
 幸恵「まあ、彩乃ちゃん、大きくなって」
 彩乃「大きくなってる、もう30ですよ？」
 幸恵「だってあんた、桜が丘で生まれたんだから・・・お母さん、残念だったねえ？」
 彩乃「はい。その節はお悔やみをいただきありがとうございまして」
 幸恵「あんたのお祖父ちゃんも気の毒だったよ。奥さんの時より落ち込んじゃってさ」
 寿子「同じ大根に手を伸ばす。」
 幸恵「なんだよ、あんた、一回、手、放したんだろ？」
 寿子「二人、大根から手を放さない。」
 寿子「今夜は主人が好きですき焼きにするんです！」
 幸恵「あーやだ、ダンナさん、いつ生き返ったわけ？」
 販売員「慌てて割って入り、」
 販売員「ほら、大根、こっちにもありますよ」
 寿子「そっちの、ちよっと、葉っぱが萎れてますでしょ？」
 幸恵「いいじゃないの。80のあんただって十分、萎れてるんだから！」
 寿子「二人、激しく引張って、」
 寿子「まあ、あたくし、まだ79ですっ！」
 彩乃「強情なんだから！お放しなさいって」
 幸恵「引張って！お放しなさいって」
 寿子「大根を手にしたまま尻餅をつく。」

幸恵、寿子の帽子のつばに大根の葉っぱ。指さして大笑い。

○下島家・リビング（夕）

寿子「ちよつとお父さん、聞いてよ！」

寿子「八百屋さん、火曜にしか来ないのに、

山下さんったら、あたしの大根、取っちゃ

ったのよ！ ひどいと思わない？」

寿子「く掲げながら横切る。よく、ここ

で40年頑張ってきたもんだわ」叩く。

○北森市役所・外観

○同・まちづくり推進課

別府「あ、課長、ちよつとこれ」

別府「これ、見てください」

別府「関根、別府のPCを覗き込む。

別府「桜が丘で空き家になつてる所の固定資

産税の額、調べてみたんですよ」

別府「1軒あたり、年間20万から30万

くらいでしょ？ 誰も住んでもないのに」

別府「それで？」

別府「家主が負担してる場合もあるわけ

で、安かったら、その空き家をうちで借り

上げて、安い家賃で子育て世帯に貸せば、あ

り、そこにも若い世代が住んで活気がでるん

別府「あ、なかつて」

別府「だめですか？」

別府「」

関根「いくら庭付き一戸建てだったって、バスもろくに走ってないんだぞ？ 老人ばっかりで近くの小学校も廃校しちゃったし」
別府「でも、人が住まなければバスもさらに減るしって、負のスパイラルなわけ」
関根「お前さ。うちの市がどんだけ財政難なのか、わかってんだろ？ コスパを考えなみろよ、コスパを」
別府「だめですか・・」
別府「しよぼくれる。」

○住宅地・外観
満開の桜が咲いている。

○下島家・玄関前
スポーツカーが玄関前に停まり、運転席から男性が降りてくる。
寿子「飛び出てきて男性から鍵を受け取り、嬉しそうに車のボディをなでる。」

○桜が丘住宅内・道
別府「別府、女性警察官と一緒に歩いている。女性警察官「確かに空き家も多いですね」
別府「うんうんとうなずく。」

○丸山家・玄関前
女性警察官と一緒に別府、インターンフォンを押す。
彩乃が玄関の戸を開ける。
女性警察官「北森警察署の生活安全課です」
別府「あの、丸山様は？」
彩乃「祖父でしたら、今、出かけてますが」
女性警察官「お孫さんの水上彩乃さん？」
彩乃「あ、はい」
女性警察官「ちょうどよかったです。例の件で、お伝えしたいことがあって」
彩乃「不安げに頭を下げる。」

○桜が丘住宅内バス停

寿子「奥様。おきれいでしたものでねえ。今頃、
 あつちで娘さんに会えてるかしら？」
 丸山「不思議ですよね、香りついでうのは。
 一瞬で、あの頃、若い頃の記憶がペアっと
 蘇るんです」
 寿子「私もこれを嗅ぐと若い頃、思い出しま
 す。ローマの休日、主人と12回も見に行
 ちやつたこととか」
 丸山「12回もですか。僕は、あの凜とした
 フアッションも好きだったな」
 寿子「『エレガントは、いくつになっても色
 あせない』って。彼女の名言ですよね？」
 丸山「そうそう。生き方にこう、一本、筋が
 通ってた」
 丸山「丸山、寿子のハンドル捌きを見て、
 いですね。実際に、下島さん、運転、上手
 寿子「まあ。ありがとうございます」
 丸山「僕なんか、とつくと免許、返納しちゃ
 ったんですけど、もともと運転は好きでね」
 寿子「私、主人にマニュアル車も運転させら
 れてたんですよ？」
 丸山「道理で、今の若い人よりも、よっぽど
 お上手なわけだ」
 寿子「信号で停車させ、
 寿子「會長さん、今日はお急ぎですか？」
 丸山「いえ、駅前のスーパーに買い出しに行
 くだけです。が、」
 寿子「ちよつとだけ、ドライブしません？
 丸山「沿いの桜も満開で、見頃みたいですよ」
 丸山「いいですねえ。行きましよう！」
 寿子「領き、勢いよく発進させる。」

○小型バス車内
 幸恵「運転手さくらん。悪いね、貸し切りみた
 いで。こりや運転手つきの車みたいだねえ」
 運転手「笑う。」

○ 寿子のスポーツカー内
 丸山「得意気に運転する寿子。助手席に丸山。」
 丸山「僕は昔、大型バイクも趣味でね。」
 丸山「まあ、それはステキ！」
 丸山「急に怪訝な顔で、道路をキョロキョロと見回し始める。」
 丸山「高速の出口に侵入していく車窓。」
 丸山「逆、逆！ 出口から入っちゃってる！」
 丸山「逆、逆！ 出口から入っちゃってる！」
 丸山「えっ？ ええっ！」
 丸山「窓の外を高速を逆走する景色が流れる。」
 丸山「下島さん、この車、逆送してますっ！」
 丸山「そんな・・」
 丸山「ひとまず！ 路肩！ 右の方に！」
 丸山「手を伸ばして横からハンドルを握る。」
 丸山「路肩？ 右？ ・・右ですか？」
 丸山「前から来たトラックが大きなクラクションを鳴らし、避けて通っていく。」
 丸山「（悲鳴）きゃあー！」
 丸山「下島さん、落ち着いて！ いいから、アクセルからゆっくり足を離して！ 急ブレーキは危ないから！」
 丸山「ハンドルを操作。」
 丸山「スポーツカー、かろうじて路肩に停車。ぜいぜいと呼吸が荒い二人、顔を見合わせている。」
 丸山「うっ！」と胸押さえる。
 丸山「丸山さんっ！」
 丸山「前屈みにうづくまる。」

○ 走る救急車

○ 警察署・外観（夜）
 赤いランプが見える警察署。

○ 同・取調室（夜）
 武彦、勢いよくドアを開け、「母さ

ん！「と、入ってくる。警察官の前に呆然と座る寿子。

警察官「息子さんです。ね？」

武彦「ご迷惑をおかけしました。丸山さんは？」

警察官「大丈夫ですよ。しかし……」

武彦「判ってます。僕の責任です。僕がもつと早くに免許を取り上げとけば」

武彦「武彦、警察官に90度に頭を下げ、

武彦「武彦……」

武彦「母さん、まったくもう、俺……」

武彦「母さん、涙声で叩き続け、

武彦「……ごめんなさい」

警察官「と」と部屋隅に呼んで、武彦を「ちよつ

警察官「いえ、してないかと」

寿子「耳をそば立て、はつと顔を上げる寿子、

寿子「認知症なんかじゃありません！！」

武彦「母さん……」

寿子「人をそんな年寄り扱いしないで！」

武彦「泣きじゃくる寿子の背中を摩る。

○同・リビング（夜）
暗いリビング。
カッチカッチと時計の音が響く。
遺影の前の床に座り込んでいる寿子。

○マンション・外観
○同・武彦の部屋の玄関・中
武彦、派手な服の寿子を招き入れ、家

武彦「の奥に向かい、
「おい！お祖母ちゃん、着いたよおー」
下島美香（43）、出てきて、寿子の
服装に上から下まで視線を走らせ、
美香「（無表情に）いらっしやいお義母さん」
寿子「（小声で）暫くお世話になりました」
武彦「暫くなんて言わないでさ。ずっといて
くれていいんだよ。俺んちだからさ」
寿子「諒太は？」
武彦「あ、部活。まったく、あいつ、土曜も
日曜もないんだ。試合だ、練習だって」
寿子「武彦に促され中に入っていく。」

○マンション・外観（早朝）

○同・武彦夫婦の部屋（早朝）
美香「ねえねえ、パパっ！起きてよ！」
武彦「トントントと包丁の音。」
武彦「何だよ！寝返りを打ち、時計を見て、
美香「お義母さん、起きてご飯作ってるみた
いなのよ！」
武彦「武彦、再び寝ようと布団をかぶり、
「嫌よ、そんない。やらしとけば・・」
美香「言つてよ。もお！ただでさえ私、今、プ
ロジェクト大変なのに、何でこんなことに
なるわけ？信じられない！」
美香「急いで部屋を出ていく。」

○同・武彦の部屋の玄関・中（朝）

寿子「じゃあなに？このうちは、いつ
つも朝、食べないってこと？」
武彦「あ、でも、母さんのお昼なら、ゆうべ
のうちに弁当作って冷蔵庫に入れてあるつ
て。聞いたでしよ？電子レンジであつた

寿子「ラインが来ました」
しよつちゆう、来るものなのね」
寿子と美香、会話もなく食べ続ける。

○マンション・外観（深夜）

○同・武彦の部屋・6畳ほどの和室（深夜）
畳に布団を敷いて眠る寿子。
玄関の閉まる音に目を覚ます。

○同・ダイニングキッチン（深夜）

武彦「一人でラーメンを食べている。
パジャマにカーディガンを羽織った寿子、入ってきて武彦の前に座り、
寿子「こんな遅く食べちゃ、身体に毒よ」
武彦「飲んだあとのラーメンが旨いんだよ」
寿子「美香さんは起きてこないの？」

武彦「あ、母さん、止めて。美香、明日、大きいコンペでプレゼンだから」
寿子「しぶしぶ座る。」

武彦「（酔った風に）それに、メのラーメンっていうのはさ。一人で食べるのが最高なんだよ」

寿子「あんた、だいぶ、酔ってるね」

武彦「それより、服、何とかなんない？」

寿子「え？ どういうこと？」

武彦「近所の手前さあ。母さんの若作りの服、みつともないってさあ」

寿子「みつともない？ 美香さんがそう言うてるの？」

武彦「あ、じゃないけど・・・地味っていうか、もうちよつと年相応のつてないわけ？」
寿子「年相応？ そんな服、どこで買ったらいいか、母さん、分かんないわ」

武彦「あれ、巢鴨とかにあるんじゃない？」
困惑気味の寿子。
ラーメンを食べ続ける武彦。

○巢鴨商店街・外觀
「巢鴨商店街」の表示。

○同・歩道

高齡者で賑わう通り。
派手な服の寿子、恐る恐るという風に
店を覗いて歩いてる。
手押し車を押す幸恵、寿子に気づく。
幸恵「やたら若作りの婆さんがいると思った
ら、あんたかい。元氣そうじゃないか」
寿子「ご挨拶もしないで、留守にしまして」
幸恵「お陰で桜ヶ丘も静かになつたよ。で？
何してんの、こんなところで」
寿子「息子に年相応の服を着ろと言われたん
ですけど・・・」
幸恵「な・ん・だ。そういうことなら、あたし
に任せな」
幸恵、幸恵の肩を抱き進む。

○同・洋服店内

幸恵「どう？後ろに引いて眺める。
幸恵「いいだろ？ウエストも足首もゴムで、楽
はしゃぎ気味の幸恵！」
困惑顔の寿子。

○同・別の洋服店内

幸恵「似たようなっぽい服を試着する寿子。
「似合うよ」と肩を叩く幸恵。
幸恵「あたしも結構、親切だろ？」
寿子「あたくし、こんな感じで色あせて行く
のかしら？」

幸恵「いい？鏡を見て沈み込む。

近所で言いたかないけどさ。あんなの若作り、
寿子「だからつてもないって言ったんだよ」
の・カケラもない服・・・」

幸恵「しわくちやな婆さんが真っ赤っかな服、
 着てたら、化け物みたいで、気味悪いだろ？」
 寿子「化け物みたい？いくらなんでも。奥様、
 言い過ぎじゃないですか？！」
 幸恵「まったく、人が親切にしてやれば、い
 が聞いたら、何だいっ！エレガンス
 怒って去って行く幸恵。
 地味な服を試着したまま、見送る寿子。
 ○総合病院・外観
 大きな病院の建物。
 ○同・丸山の病室
 ベッドで本を読んでいる丸山。
 脇に彩乃が座っている。
 灰色の地味な服の寿子、小さな花束を
 持ち、そっと入ってくる。
 丸山「お顔を上げ笑顔で」ああ、下島さん」
 寿子「お加減いかがですか？」
 丸山「もうすっかりいいんですけど、医者が
 もう少し入って行って、出してくれ
 ないんですよ」
 彩乃「私、売店でお茶買ってきますね？」
 と、立ち上がる。
 寿子「あ、彩ちゃん、いいわよ。すぐ失礼す
 るから」
 丸山「もう入院生活飽き飽きでね。頼むから
 ゆっくりして、ほめてくださいよ」
 寿子「あの本当に申し訳ないことをしました」
 丸山「だから、もういいんですって。それよ
 り、いつものステキな服はどしたんです？」
 寿子「あの、今日はお見舞いでしたから」
 丸山「だったら、下島さんの颯爽とした姿を
 見た方が僕は元氣になったのに」
 寿子「これからは年相応の格好にするって決
 めたんです。息子にも言われて」

○同・武彦の部屋・6畳ほどの和室
鏡の前で派手な服を着て微笑む寿子、

○マンション・外観

彩乃「私の名前出して1千万円も」
彩子「それ、警察には？行ったの？」
彩乃「ええ、もちろん。でも、まだ捕まっ
なくて・・・」
寿子「大変だったのね？」
彩乃「同じ会社の人だったんで、私、いられ
なくて会社も辞めました。人を見る目がな
かったって言うか、自分が情けなくって」
寿子「彩ちゃん、涙ぐむ彩乃の肩を抱き、
彩乃「母が亡くなった後に、こんなことがあ
って祖父もショックだったと思うんです」
寿子「丸山さん、町内会長もなさって皆んな
が頼りにしてたから。私たちも気づいてあ
げられなかったわ」
彩乃「皆さんに心配かけないようにつて言わ
なかつたんだと思いませんか？」
寿子「言えなかつたのかもしれないわね」
彩乃「父は一緒に東京で暮らそうって言って
るんですが、あの家を離れたくないって」
彩乃「下島さん。あの、失礼なこと聞いても
いいですか？」
寿子「んん？」
彩乃「一人で暮らすって寂しくないですか？
孤独死とか怖くない？」
寿子「へっ、怖くない？」
彩乃「あ、はい」
寿子「丸山さんのあの家にはきつとまだ奥様
がいるのよ。私も主人と一緒にだと思ってる
から。寂しくなんか全然ないわ」
彩乃「うんうんとうなずく。」

丸山「いいわ」とつぶやき荷造りを始める。
丸山「あなただが勧めてくれた、オードリ
へッパインの名言集、読んだんですよ」

丸山「『幸福とは健康と物忘れの速さで
ある』って。これ傑作でしょ？ 特に物忘
れの速さって」

武彦「武彦と美香、入口から入ってくる。
よ？ 車がなくて生活できないって、あれ
ほど言っていたじゃない」

寿子「美香さん、荷物をつめる寿子。
な思いをさせちやうって。あたしね。あなた
の邪魔はしたくないの」

美香「お義母さん・・」
武彦「ねえ。行かないでよ。俺、母さんが家
で待っていてくれると嬉しいんだよ」

寿子「そう。でも、あんたも、彼のラーメン
は一人がいつて言っていたじゃない？」

武彦「え、何？ 今、ラーメン？」
寿子「おなじよ人生も。人生の彼も一人が
最高のよ、きつと」

寿子「荷物を持って立ち上がる。」

○下島家・外観

○同・リビング

派手な服の寿子、「ただいま」と勢
よく入ってきて、閉められていたカ
ーテンをサーツ、サーツと開ける。
寿子「あー、この家が一番落ちくわあ
くれた、お鈴をチーンと鳴らす。」

○桜が丘住宅内・路上

野菜販売のトラックが停車している。
寿子「ニコニコと野菜を吟味している。
その横を地味な色のシルバークーに乘

寿子「会長さあくん、その後、お加減いかがですかあ？」

寿子「真剣な顔でカーレースに集中。シニアカーが丸山の犬のリースを引っかけ、そのまま走る。気づかない寿子。

丸山「わあー！止めて、止めて！」

丸山「気がついた幸恵、運転したまま長ネギでリールを外そうと乗り出して、急停車。寿子「え？」と振り向き、急停車。

寿子「同時に幸恵、道路に投げ出される。

× × ×
幸恵「地面に倒れている。」

寿子「どなたかあ！どなたか救急車を！」

幸恵「やめとくれ、救急車なんて・・・」

寿子「幸恵を抱き起こす。」

○山下家・外観（夕）

○同・玄関・中（夕）

肩を借りながら腕を吊った幸恵、寿子に

○同・リビング（夕）

ダンボールが積み上げられた部屋。

幸恵「あんたがこんなに優しかったとはね。」

寿子「40年、ここに住んで知らなかったよ。」

幸恵「痛みますか？本当にあたしに、人とぶ

つかりそうになって。あつたしね。シニアカーって

の歩道、走るから、結構危ないんだよ。」

幸恵「PTAね。あの頃、あんたとはよくや

りあったよ。」
寿子「ダンボールを見回して、

〇道路（夕）
 ド派手ピンクのシニアカーを前屈みに
 幸恵「なに、奥様、引越しなされるの？」
 寿子「膝も痛いしね。一人はもう限界！」
 幸恵「息子の家の傍の老人ホームにね」
 寿子「息子さんの家じゃなく？」
 幸恵「息子は来いって言うんだけど、あの子
 の家に、あたしの居場所はないって、この
 前行って、よく判ったからね」
 寿子「荷物の中のアルバムを手にとる。
 若い母親が二人、子供たちと一緒に笑
 って写っている。」
 寿子「これ、武彦だわ。あたくしたち、40
 年以上もここで暮らしてきたってことね」
 寿子「奥様、急に、幸恵の手をとり、
 寿子「奥様行かないで！行かないですよ！」
 幸恵「な、なんだよ。急にどしたんだい？」
 寿子「これからも、ずっと桜ヶ丘で暮らしま
 しょうよ」
 幸恵「あんたのことはさ。若作りの派手な婆
 さんとして忘れないからさ」
 寿子「奥様の面倒ぐらい、あたくしが見てさ
 し上げますから！」
 幸恵「何、言ってるの。あんと私じゃ、2
 つしか違わないだろ。それにこんな不便な
 とこじゃどしよもないよ」
 寿子「寿子、急に立ち上がり、
 寿子「あたくしが何とかします！そうよ。
 まずシニアカーよ。シニアカーの道さえき
 ちんとすれば買い物とか病院とか不便じゃ
 なくなるし」
 幸恵「寿子、時計を見て駆け出しいく。
 幸恵「ちよつとちよつと。怪我人置いてどこ
 行くんだよお」
 幸恵「ボタンとドアが閉まる音がして。
 幸恵「あーあ。おつちよこちよいつてのは婆
 さんになっても治らないもんなんだねえ」
 幸恵「呆れて笑う。」

なつて必死の形相で走らせる寿子。

○北森市役所・まちづくり推進課（夕）

サングラスの寿子、ハアハアともつれるように窓口に駆け込んでくる。

女性職員がそつとつつき合う。

寿子「（はあはあと）ま、窓口、まだ時間、開いてるんですよね？」

別府「別府、奥から慌てて出てきて、下島様、その、バスの方はまだ・・・」

寿子「（大声で）いい加減になさいませえ！」

職員「来所者たち、驚き振り向く。市民の生活、真面目に考えてますの？」

寿子「別府、助けを求めよう、周囲を見る。寿子、イスにドンっと座り、

寿子「あそこね。今日は別の提案に上がりました。別府と職員たち、一斉に指さされた方を

をキョロキョロと探す。

寿子「ド派手ピンクのシニアカーが見える。別府「ええ。道路交通法上、歩行者と一緒に

歩道を走ることになつてますの」

寿子「よく考えてみて？ あれが歩道を走つていたら、歩行者とぶつかりして危ない

でしょ？ 特別にお年寄りの方と！」

別府「（小声で）またお年寄りつて自分もじゃ？（普通に）で、そのご提案とは？」

寿子「シニアカーとか電動車いすとか、とにかく遅く走る車の専用レーンを作つて下さ

らない？」

別府「はあ、しかし、下島様お一人がそういうご意見でも・・・」

幸恵「突然、幸恵が割り込んで、腕を吊つた幸恵、丸山や高齢者の女性

たちを引きたれてる。後ろに彩乃の姿。

寿子「奥様・・・」
 幸恵「（寿子に）やっぱ、ここだと思っただよ」
 幸恵「僕ちゃん。よく聞きな！この派手な、
 別府「婆さんの言う通りなんだよ」
 幸恵「幸恵、僕ちゃんって・・・」
 幸恵「いいかい？有難いことにあたしら、
 まだこんな元気だ。自分たちで頑張れる、
 だけ頑張るから、シニアカーくらい、安全
 に乗らせな」
 別府「は、はあ、しかし法律の規制があつて」
 幸恵「法律法律って。法律は国民のためにあ
 るんじゃないのかいっ！まったく」
 別府「（ぶつぶつと）いつもいつも・・・」
 幸恵「高齢者たち、「え？」と耳に手を。
 「聞こえない！みんな耳が遠いんだ」
 下を向いてぶつぶつ言っていた別府、
 突如、顔を上げて周りを見回して、
 別府「（大声で）うるさあー！っ！っ！」
 一同、のけぞる。
 別府「（大声で）いつもいつも！そ
 うやって我々に要求ばかり！！」
 関根「お、おい、別府、どした？！」
 別府「あなたたちは、満額、年金ももらえて、
 こうやって我々、役所に要求するだけ要求
 して、世の中に何ひとついいことしてない
 じゃないですかっ！」
 寿子ら高齢者、職員、驚き固まる。

○北森駅・外観（夜）

駅舎の時計が8時を指している。

○駅近くのラーメン屋・外観（夜）

「来々軒」の看板。

○同・中（夜）

店主一人だけの小さなラーメン店。

天井近くにテレビが設置されている。
 カウンター席で別府がラーメンを食べ
 ている。横に中ジョッキの生ビール。
 別府「どいつもかなり酔ってぶつと、
 別府「別府、ビールを飲み干し、
 中ジョッキもひとつ！」
 入口から彩乃、おそろおそろという感
 じで入ってくる。
 店主「いらっしやいっ！」
 彩乃「別府と目が合い、互いに会釈。
 カウンターのひとつ離れた席へ。
 店主「水を出す。」
 彩乃「えっと・・チャーシュー麺」
 店主「はいっ、チャーシュー麺ね！」
 別府「別府、ラーメンを食べながら、
 別府「さっきはすいませんでしたね！」
 彩乃「えっ？」
 別府「市民の方に怒鳴ったりして・・」
 彩乃「私も、市民じゃないんで」
 別府「でも、丸山様の家にしばらくいるって
 彩乃「言ってますよね？」
 彩乃「そうですけど・・」
 別府「彩乃、水を飲む。」
 彩乃「ここ、初めてですか？」
 別府「のが生まれて初めてです」
 彩乃「はあ？」
 別府「あ、一人で入るのが初めてってこと」
 彩乃「別府、コクコクとうなずく。
 彩乃「私ね、ラーメン屋にひとり入れたら、
 彩乃「女も終わりだっと思ってたんです」
 別府「なんですかそれ」
 彩乃「でもね。もう30だし、一人でラーメ
 ン屋でラーメン食べるの解禁かなって」
 店主「チャーシュー麺、お待たせ」
 彩乃「と彩乃の前に置く。」
 別府「彩乃、いただきます」
 別府「彩乃、いただきます。一人でラーメン食
 べる女性って」

彩乃「かっこいい？ やだ、全然かっこよく

別府「そっかなあ」

彩乃「男には振られる、その男に祖父のお金騙し取られる、挙句に会社は辞めることになる。全然・・・ぜんぜん（泣いて）」

別府「彩乃、泣きながら食べ続ける。おごるよ」

○北森駅・外観（夜）
駅舎の時計が11時を指している。

○ラーメン店・中（夜）

別府「だからっ！ 水の上のお祖父ちゃん、立派だと思えますよ？ 思うけどさっ！」

別府「けどさ。我々世代の夢も希望も税金も食い尽くして、ペンペン草も生えない未来を残していくつもりかっ！」

彩乃「それは違うぞ、別府っ！」

別府「べべべ、別府？？」

彩乃「よく聞け別府。あ、耐ハイお代わり！」

店主「お嬢さん、もう止めといた方がいいよ！」

彩乃「お嬢さん？ 冗談よ。私ね、もう30年な酒癖悪かったんだ」

別府「水がさ、もう30でさ。こうやって人

彩乃「彩乃、涙があふれて、元気で・・・見て

うか、ああやって堂々と生きてけばいいん

別府「未来に希望がさっ！」

テレグニウスが生産中止される自動二輪車、

「になりました」
店主「セグウェイねえ。店内のテレビを見上げる。」

× (店内テレビ画面) ×
セグウェイに乗ってパトロールする警察官の映像が映っている。

× ニュースの声「なお、構造改革特区の指定により日本で唯一、公道でのセグウェイの走行が認められているつくば市では、今後も、活用を続けていくとコメントしています」

別府「構造改革・特区？」

別府「構造改革特区？」

店主「お客さん、どうかした？」
別府「そうだ構造改革特区。その手があった」

○ 丸山家・玄関前 (深夜)
彩乃を背負った別府、はずむように何度もチャイムを鳴らす。

○ 同・玄関・中 (深夜)

別府「別府、酔いつぶれた彩乃を降ろす。」

丸山「別府君。彩乃が迷惑かけたね」

丸山「どした？ 何かあったか？」

別府「構造改革特区ですってば！！」

○ 同・彩乃の寝室 (深夜)
彩乃、寝室で熟睡している。

○ 同・リビング (深夜)
丸山と別府、ソファに向い合って座っている。

別府「昼間は申し訳ありませんでした」
丸山「あれ、君の言ったことも一理ある」
別府「それで、特区なんですが・・・」

丸山「つくば市が公道にセグウェイ走らせる
特区に指定されてますよね？ 地域限定で」
丸山「じゃシアカーのレーンを特区で？」

別府「考え方としては同じじゃないかと」
丸山「僕の建設省時代の部下たちも随分、特
区に関わってるが、北森市みたいな小さい
市が申請するとなると大ごとじゃないか？」

別府「明日、課長と相談してみますけど」
丸山「そうだな。もしも、本気でやるなら、
シアカーだけじゃなく、高齢者のために
必要な交通システムを広く考えた方がいい」

別府「高齢者に必要な交通システムを？」
丸山「例えば乗り合いタクシーもOKにした
り、シニアカーの制限速度6キロの上限を
はずしてもらうとか・・・」

丸山「丸山様、さすがです」
丸山「もうしよう。もしも申請するなら、そ
もそもお願いしたのはいわゆる住民なんだし、
私も手伝うから。これも昔は霞が関にい
たんだけ。採択のツボもわかる」

別府「課長に伝えます」
丸山「あとは、市民の同意だな。北森市民1
0万人のうち、せめて5%、5千人くらい
の同意が要るだろう」

別府「うんうんとうなずく。」

○北森駅・外観（朝）
電車が走るのが見える。
セミが鳴いている。

○同・駅前広場（朝）
ド派手な服の寿子と幸恵ら高齢者たち、
署名活動をしている。

寿子「パネルに『高齢者にやさしい交通シス
テム特区認定を！』の文字。この地域の交通の不
声を張り上げ」

便を解消しましょう！」
幸恵「ここですと暮らしていけるんだよ」
高齡男性、署名に応じる。笑顔の寿子。
幸恵「幸恵、手押し車からいつか買ったまま、
ああ、引き受けたはいいけど、こりや、
結構、大変だよ？」

○（回想）北森市役所・会議室
別府、関根ら市職員と寿子、丸山ら、
会議テーブルで決死の表情。
ホワイトボードに「構造改革特区申請」
の文字と関連する手書きの模式図など。
寿子「分かりました。それじゃ、私たち、署
名集めます。5千なんて言わずに1万くら
い集めてみせますわ。昔、PTAでもよく
やりましたもの。ね？ 山下さん」
寿子「お、おいつ！」
幸恵「困惑気味。」

○（戻って）駅前広場（朝）
幸恵「人々、寿子らの前を素通り。
ホント集まるのかね？」
寿子「奥様何言ってるんです。集めるんです！
会長さんも住民と一体となつた計画内容に
するんだって言ってるじゃないですか」
幸恵「別府さん、疲れを知らない婆さんだよ」
寿子「別府さん、メガホンを取り出し、
寿子「シニアカーや車のための専用レー
ンを作りましょう！」
手押し車に寄りかかり汗を拭く幸恵。
寿子「若い方も高齡者も住みやすい街にする
ために、署名をお願いしましす！」
前に女性が運転する自家用車が停まる。
助手席からスーツの男性が降り、手を
振ってからドアをボタンと閉める。
寿子「ほほ、笑み、
私たちもあんな風でしたよね？ 毎朝、
主人と子どもたちを送って」

幸恵「ああ、懐かしいやね」
寿子「毎日、充実してたわ」
幸恵「あの頃の活気ある街に戻りたいわな」
寿子「うなずき車を見送る。」

○北森市役所・外観（夕）

○同・会議室・外（夕）

入口に「構造改革特区 高齢者にやさしい交通システム申請準備室」の貼紙。

○同・中（夕）

別府「真剣にPCに向かっている。
彩乃と数人の職員も忙しく働いている。
関根「（彩乃に）水上さん。どう慣れた？」
彩乃「はい。ありがとうございます。」
関根「いい時に臨時職員の募集があったよね」
別府「（顔も上げずに）水上さん、課長より、よっぽど戦力になってますよ？」
関根「苦笑い。」
寿子「寿子と幸恵、二人並んで1台のPC前。
寿子「ここ、ソロバンはないのかしら？」
幸恵「ああ、ポチポチとキーボードを打つ。
幸恵「あ、ちがうちがう、そこじゃないよ。
寿子「全く覚えの悪い婆さんだよ」
寿子「そんないの！」
二人「つかみ合う勢いでPCと格闘。
丸山「半紙に筆で「必勝！構造改革特区」と書いて壁に貼り出す。」

○北森市役所・外観（夜）

○同・会議室（夜）

別府「一人でPCに向かっている。
彩乃「彩乃、入ってきて、
彩乃「公文書館に桜が丘の開発当時のデータが残ってました」
別府「ありがとう」と受け取り、

○青空

○霞が関周辺・外観
地下鉄「霞が関」の表示。
官庁街の建物群。

○同・付近の広場

スーツ姿の丸山をはじめ、寿子、幸恵ら高齢者が緊張気味で集まっている。寿子、いつにもまして気合の入ったフアッション。

幸恵「署名も3千は超えたからね。3千人が応援してるってことだよ」

別府「うなずく。」

寿子「目標の5千人に届かなくて、悔しいんですけど・・・」

別府「いえ、この短期間によくここまで集まりましたよ」

関根「大きなカバンを持った関根、

丸山「じゃ、我々、桜が丘の住民は傍聴席で

プレゼントの成功を祈ってますよ」

寿子「あ、ちよっと待って」

寿子「あ、ちよっと待って」
寿子、バッグから香水を取り出して、別府に景気よく吹きかける。

別府「別府、思わず手で払って、

別府「な、なんです？」

寿子「ランテルデイよ。香水」

別府「それでもしかして・・・」

寿子「そう。オードリーヘップバーン愛用の」
寿子、うんうんとうなずいて見せる。

○霞が関庁舎・外観
国の合同庁舎の建物。

人の出入りをチェックする警備員。

○同・会議室

前のスクリーンに「構造改革特区認定審査会」の大きな文字。

別府「(小声で) 関根さん! あれ」
 別府「別府、関根、前方の席で緊張している。」
 傍聴席に「がんばれ北森市」の横断幕。
 寿子ら、「こやかに手をふる。」
 別府「のど自慢じやないんだから・・・」
 別府「さ、さ、始まるぞ!」
 別府「ネクタイを締め直す。」
 別府「前に立って大きなスクリーンに映し出した資料を説明している。」
 スクリンにシアターや電動車いすの写真、高齢者の推移のグラフなど。
 横で、P Cを操作する関根。
 傍聴席で見守る寿子ら高齢者たち。
 大内香織(32)、入ってきて「記者席」と書かれた席にそつと座る。
 官僚1「北森市さんの言いたいことはだいたいわかったが・・・」
 官僚1「別府、ゴクリと唾をのみ込む。」
 官僚1「既に過疎化が進んでしまってる郊外住宅地向けのシステムでしよ? これ、市の全体が望んでる市民の3%、3千人の方の同意の署名があります。地域を限定させるので、反対の方が少ないと思われませう。」
 官僚2「道路交通法とかいろいろんな規制はむやみやたらにね? 多くの人の安全と利益のためにはあるんじゃない?」
 別府「法律の趣旨は尊重しつ、一部の地域限定で慎重に規制を外すわけです。」
 官僚1「シニアカーや車イスを車道側に走らせ事故が起これば、車道側には保障は?」
 別府「専用に走らせてる方が危険です。今のまま歩道を走らせると、車道側には危険です。」
 別府「せいで事故が起これば、車道側には保障は?」
 官僚1「シニアカーや車イスを車道側に走らせ事故が起これば、車道側には保障は?」

官僚1 「その根拠は？ データだよデータ！」
 別府1 「実際に歩道において、この1年でも市内で
 かつたという事例が、この1年でも市内で
 20件以上発生してます。幸い今のところ
 重大事故はありませんが」
 官僚1 「1日にどれだけの人がそこを利用す
 るって？」
 別府1 「我々の試算では1日、15人程度が」
 官僚1 「たった15人！ 話にならないよ」
 別府1 「しかし、その15人の市民の方、お一
 人お一人の生活にとつて、移動手段は死活
 問題です」
 官僚1 「はあ？」
 別府1 「また、今は移動手段がなく、我慢され
 ている方が、この仕組みにより、積極的に
 外に出て活動しようというお気持ちになる
 かも知れません。壮大な実験とも言えます」
 別府1 「それに、北森市のこの仕組みが成功す
 れば、全国の市町村にも広がるかよ」
 官僚1 「（嘲笑して）こんなも広がるかよ」
 官僚2 「官僚1、書類を机上に投げ出す。それに
 乗合タクシーも認めろって？」
 関根1 「それは一般のバスの便が増やせないの
 で代替措置として、バス」
 官僚1 「あのさ、そもそもタクシーの規制が
 何のためにあるか分かってんの？」
 別府1 「構造改革特区というのは、国民の生活
 実態と合わなくなつた規制を外すという制
 度です。・・」
 官僚1 「それ、あんたら北森市が俺らに説教
 する？」
 官僚たち、嘲笑する。
 寿子の声「（大声で）んつまあ！ 何、その
 偉そうな口の利き方！」
 寿子「同、一斉に寿子を見る。
 寿子「オードリィヘッパ―ンも言ってます」
 「威張る男は要するに一流じゃない」
 幸恵「おい！」と寿子の膝を叩く。

幸恵「始めるか」
 別府「それ、絶対、はまた引越しの準備で」
 幸恵「いっそのこと、勝手に道路にペンキで」
 別府「すいません。中の紙吹雪、後片づけも」
 幸恵「会長さん、これ、どうします？ まあ、」
 別府「力及ばず、申し訳ありません」
 丸山「別府君、よくやったよ。私もね。現役」
 丸山「何度もこういう思いをしたもんだよ」
 別府「頃、何度もこういう思いをしたもんだよ」
 幸恵「幸恵、天井から吊るしたくす玉を指し、」
 幸恵「会長の天井から吊るしたくす玉を指し、」
 幸恵「努力賞ってことで、盛大に割っちゃう？」
 幸恵「大変なので、やめてもらえませんか？」
 幸恵「いっそのこと、勝手に道路にペンキで」
 幸恵「それ、絶対、はまた引越しの準備で」
 幸恵「始めるか」

○同・会議室（夕）
 別府ら職員と桜が丘の高齢者ら、黙っ
 たまま会議室の撤収作業をしている。

○北森市役所・外観（夕）

官僚1「傍聴席、落胆のぞわめき。」
 書で市長あてに通知します。結果は追って文
 官僚1「咳払いして）この案件については、
 採扱は難しいと考えます。結果は追って文
 官僚2「侮辱じゃない。我々も国民全体の最
 大限の幸福を考えない。我々も国民全体の最
 官僚2「侮辱じゃない。我々も国民全体の最
 大限の幸福を考えない。我々も国民全体の最
 寿子「いやですわ。あの方たちは、北森市と
 寿子「いやですわ。あの方たちは、北森市と
 丸山「下島さん、落ち着いて。この計画が採
 丸山「下島さん、落ち着いて。この計画が採
 拍子もない恰好の婆さんは」
 官僚2「（ぶつぶつと）なんなんだ、あの突
 官僚1「傍聴席の方は静かにお願います」
 官僚1「傍聴席の方は静かにお願います」
 寿子「別府係長が言ってること、どこが間違
 寿子「別府係長が言ってること、どこが間違

香織「依然、部屋の隅でしよんぼりの寿子が言える女性のぜひ、ご出演いただきたくて」
全員の視線を感じ、寿子、顔を上げる。

○桜が丘住宅・外観

○丸山家・リビング

彩乃「音楽が流れテレビの前に座っている。音報道NOW」の文字。

彩乃「お祖父ちゃん。始まる！」
丸山「いそいそと入って座る。」

○テレビ画面（「報道NOW」）

司会男性「報道NOWです。今週は高齢者の移動手段、これからどうするってテーマで。じゃ、まずゲストの方をご紹介します」

○北森市役所・まちづくり推進課

別府と関根、休日出勤中。
職場のテレビに囃り付いている。

○テレビ画面（「報道NOW」）

司会男性「昨年まで国土交通大臣を務めていらした、おなじみ今泉寅次郎衆議院議員」

司会男性「それから、交通工学が専門、東京大学教授の水野忠雄先生」

司会男性「そして、今日は住民の方の代表として、今、国に『高齢者にやさしい交

通システム』について、特区申請をしてい

る北森市にお住まいの、下島寿子さんにも

お越しいただきました」

大きなサングラスにオーダーヘアップ
カメラの完コピ、ド派手衣装の寿子が
カメラに向かってほほ笑む。

○北森市役所・まちづくり推進課
別府と関根、「えーっ！」とのけぞる。

○関東テレビ局・スタジオ
後方で寿子ら出演者を見守る香織、ニ
ンマリと笑う。

○山下家・リビング
幸恵、漬物をつまみながら、ちゃぶ台
の前のテレビを見ている。

○関東テレビ局・スタジオ
司会男性「まずは今泉議員！この北森市が
申請してる構造改革特区って、例のやつで
すよね？」

今泉「あ、はい。特区ってほら、うちの親父
が総理大臣やってる時に始めたんで」

司会男性「規制どんどん外しちゃうってね」

今泉「そう、そんなとこ・・たぶん」
今、全国の郊外の住宅地が陸の孤島みたい
なことになってるって、ホントですか？」

水野「ええ、特に免許を返納した高齢者には
深刻な問題です。これ、意外にも首都圏な
ど都会の周辺に多いんですよ」

司会男性「では下島さん。まず、お住まいの
北森市の住宅について伺いたいのですが」

寿子「そうですね。あたしくしたちは、北森
市の桜が丘住宅に40年も住んでいます、

司会男性「しかして、下島さんたち高齢者の方
も移動手段に困ってるんですよ。あたしくし、
寿子「ちよっとお待ちにならない？あたしくし、
高齢者ではありませんのよ？」

○山下家・リビング

幸恵、飲んでいたお茶を吹き出し咳き込む。

○テレビ画面（「報道NOW」）
司会男性「あ、あ、これは失礼しました。

で、今、一番、言いたいことは何ですか？」

寿子「それですわね・・・」

司会男性「あの、下島さん？」

寿子「うつむいたまま。」

○北森駅前にあるラーメン店内

店主「あれ、どしたんだい？」

見上げながら野菜を炒める。

○関東テレビ局・スタジオ

司会男性「じゃまず、北森市の申請内容、V

TRにまとめてあるんで、それ・・・」

寿子「ちよつと、お待ちになつて！ カメラ、

司会男性「あ、そうですかしら？」

寿子「急、立ち上がると、おもむろに

サングラスを外し、カメラ視線。

寿子「先日の特区申請を審査された国の官僚

のみなさん見てます？ ご機嫌いかが？」

司会男性「あ、あの、下島さん？」

寿子「あなた方、国のお役人は全国の高齢者

に免許を返納しろっておっしゃってま

すわよね？ そうでしたわよね、先生？」

水野「あ、あ、はい・・・」

寿子「その癖バスは減る一方で、あたくした

ち、それなら自分たちで何とかしようじゃ

ないかって、シニアカーや電動車が安

全に走れるように・・・」

○渋谷交差点など大型野外ビジョン前

人々が大型ビジョンを見上げています。画面の「報道NOW」の寿子、ドアップで。画面の寿子「みんなが安心して暮らせるように。上がりましたのよ？ 知恵を絞ってお願いに。画面の寿子「（大声で）見上げていますかあ！人の話をちゃんと聞こうともしない！」と呟く。

○関東テレビ・スタジオ
 水野「つまり今までの街の片隅で何となく走らせていた、シニアカーや電動車がすなわかを、ちゃんと交通体系に位置づけると？」
 寿子「そうそう、それですね！」
 司会男性「寿子、うんうんと。」
 ユニティバスとか、市民の力で走らせるコミ寿子「寿子、うんうんと。」
 水野「性指さす。」
 水野「いや、これいけませんよ。早く走ることだけが大それたじゃないんだから。」
 司会男性「それが、北森市の提案にある、『高年齢者にやさしい交通システム』ということなんですよ。」
 寿子「はい。あたきました、この取組みをぜひ実現させたいんです。」
 今泉「すばらしい！感動しましたっ！」
 今泉「すばらしいっ！感動しましたっ！」
 親父「作った構造改革特区にふさわしい。」
 寿子「なの、これ審査会で不採択でしたの。」
 今泉「ええ、これ審査会で不採択でしたの。」
 今泉「スタッフ、慌てて、今泉に台本を指す。」
 今泉「ホントだ。台本に書いてあるわ。これ、採択しないってあり得ないでしょ。とりあえず実験的にやらせてみりゃいいじゃない。」
 司会男性「あ、あの、今泉議員、その審査会の奴らはテレビ的にちよつと、今泉議員、そのご発言」

寿子「今泉、促され、すごすごと座る。う言葉がありませんの。『不平を漏らさない、疲れを顔に出さない、本気で努力すれば必ず成功する』って」

○丸山家・リビング
丸山、寿子の話に大きくうなづく。

○テレビ画面（『報道NOW』）

司会男性「下島さん、それは？」

寿子「オードリーへっぴり言葉です。」

「あたくしたち、本気で努力して、いつか必ず成功させてみせますから」
今泉、寿子に近づき熱烈握手する。

○関東テレビ・スタジオ
香織、寿子に向かって両手で丸を作ってみせる。

○北森市役所・まちづくり推進課

テレビの前の別府と関根。

別府「関根さん、大変です！ SNSのトレ

ンド、北森市1位です」

関根「電話が一齐に鳴り出す。」

関根「やっぱりだ。ったく日曜だのに」

別府「はい」と電話に出ている。

関根「下島さん、やってくれたな」
関根、笑いながら電話対応。
電話、鳴り続ける。

○桜が丘住宅内・歩道

T「数日後」
寿子、シニアカーを走らせている。

○下島家・玄関・中

寿子「お父さあくん、ただいま」
寿子、小さな花束を抱えて入ってくる。

○同・リビング

寿子「夫の遺影の前に花を飾り、小さなケーキを置く。」

寿子「お誕生日、おめでとう。」

寿子「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

丸山「お誕生日、おめでとう。」

聞こえてくる。
 集まった人々が一斉に振り向く。
 オードリー・ヘップバーンそっくりのフ
 アッシュトンに身を包んだ寿子、
 シニアカーにスピカーをつけて到着。
 車体の後ろには風船数個。
 人々、「オードリー！つと、どよめく。
 別府「下島様、今日にはまた一段とステキなお
 召し物で」
 幸恵「僕ちゃん。図に乗るから、この人にお
 世辞は禁物だよ！」
 別府「ご報告しようと思つて。先週から空き
 家の家主を回つて、子育て世代に安く貸す
 制度にご協力していただけるよう、説明を
 始めました」
 寿子「まあ、別府さん、素晴らしいわ。そし
 たら、桜ヶ丘に以前のようにならぬ。若い人が住ん
 で活気のある街になりませんか？」
 幸恵「おいおい、ちよつとそれ、あたしら、
 生きてるうちに間に合うのかい？お星様
 さん、空から眺めてるんじゃないやだよ」
 別府「そ、そろそろ、走り初めのスター
 トの時間ですよ？」
 丸山の声「おい！ちよつと待つて！」
 革ジャンに身を包んだ丸山、大型バイ
 ク風にペイントしたシニアカーに乗つ
 て現れる。
 寿子「まあ、自治会長さん！」
 丸山「下島さんに負けないように。バイク風
 にしてみたんですよ」
 幸恵「丸山の背中を叩いて、
 「さすが桜ヶ丘のヨン様。いい男だね」
 寿子「まあ、お下品な・・」
 丸山「じゃ、下島さん、行きましょう！」
 寿子「ら、一斉にスタートする。」
 「マイフェアデイズ」が鳴り響く。
 寿子を先頭に、多くの高齢者たちが、
 シニアカーで走っていく。

○桜が丘住宅・外観（別の日）
「マイフェアレディ」そのまま流れて。

○一軒家・玄関前
寿子と幸恵、スーパーの袋を下げて、それぞれシニアカーから降りる。二人、玄関に入っていく。

○同・リビング
寿子、車イスの高齢女性に、スーパーの袋から品物を出して見せている。幸恵、器を手に入れてきて、漬物を指でつまみ、二人の口に入れる。

○桜が丘・低速専用レーン
別府と彩乃、それぞれ自転車に乗り、前後に並んで走っている。別府、振り返り彩乃にほほ笑みかける。

○デパート化粧品売り場
小さなケープをつけた幸恵、販売員に口紅を塗ってもらっている。傍に立つ寿子、幸恵の頬紅を直す。幸恵、寿子の手を大げさに払いのける。

○巢鴨商店街・外観

○同・スーパー銭湯内
カラオケ会場に浴衣姿の幸恵ら高齢女性たち。
オールドリーヘップバーン風の服の寿子、
「マイフェアレディ」をカラオケで熱唱している。
幸恵、鼻をつまみながら横で踊り出す。

○下島家・リビング
寿子の夫の遺影。
お鈴がチーンと鳴り響く。

（了）

参考資料

【引用】

- ・映画「ティファニーで朝食を」の映像及び
テーマ音楽「ムーンリバー」
(1961年パラマウント映画制作)
- ・映画「マイフェアデイ」(1964年作)
から、楽曲「踊り明かそう」